



やまべ



令和5年
12月1日発行
第8号

地域学校協働活動についての研修から

教育の原点は？ → □□□□□□□□！？

教頭 稲垣文雄

「地域学校協働活動」とは、地域、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動のことです。

山部小学校では、子ども達、保護者、地域の皆様の笑顔を通して、この活動がとても強い印象として残る行事がふれあい運動会でした。

そこで、学校教育・家庭教育・地域教育について考えてみました。

教育の原点は学校？ それとも家庭？、地域？ どれも大事ですが、やはり全部ひっくり返して自信をもたせてあげること・認めてあげることだと考えます。

親でも教師でも、子どもをしっかりと理解し、得意なこと、良いところを伸ばしてあげる。そうすることで、子どもの自信になります。

やればできるのに、自分にはできないと決めつけてしまっている子がいます。幼い段階でやる気を失っています。すごくもったいないと感じます。そういう子には、段階を踏んで、少し教え方を変えるだけで、スラスラ解けるようになることもあります。だんだんと「意外とできる」と気付くようになるのです。様々な観点で考えさせてみて、その子が一番分かるやり方を提供していく（見守る）ことで自信をつけていきます。

その子の好きなことを伸ばしてあげることも大切（教育）です。好きなことを「もっと極めてみな」と言って、その子が満足いくまで調べさせ、学ばせてあげます。そして、新たに知識を習得できたら褒めてあげることで、自信に繋がります。

このように、子ども（子どもだけではありませんが）には様々なタイプがあり、秘めている才能や良さがあるのです。そこを見つけ、理解していくことが重要です。そして、それを愛情という形で返したり、勉強を教えることで返したり、やり方を模索して子どもに自信を与えてあげるのが大切です。

5月の学校だよりにのせさせていただいた、「**アクティブシンキング**（積極的・肯定的な考え方）& **アクティブワード**は魔法のことば」を思い出しつつ、教育の原点は「子どもの自信をつけること」と信じて、子ども一人一人の可能性を最大限に伸ばせるようにしたいです。「子育ては親育ち」とも言われますが、様々な場面（教育）で、「教師も育たねば（学び続ける）」と思いました。